

## 第5章 保存活用の大綱と基本方針

### 第1節 大綱（ヴィジョン）

史跡馬越長火塚古墳群は、6世紀末葉から7世紀前葉にかけて3世代続いた「穂国造」の墓で、ヤマト政権との関わりを示す稀少な金属製馬具が出土している。この時代の三河では首長系譜が明らかになった唯一の事例として、日本の古代史と東海地方の歴史を探る上でも欠かせない古墳群である。この古墳群と国重要文化財である出土品を適切に保存しつつ、その稀少な価値を市民の共有財産として後世に継承するため、史跡馬越長火塚古墳群保存活用計画を策定するものである。

「穂の国」のシンボルである本古墳群を、周辺環境との調和を図りながら適切に保存し、地域が一体となって次世代へと確実に継承していくことを目標とし、次のとおり保存・活用の大綱となる将来像を掲げるものとする。

**広く地域と共に守り伝えよう**  
**穂の国の歴史に出会う馬越長火塚古墳群**

### 第2節 基本方針

史跡の保存活用の大綱を踏まえ、その基本方針について、以下の3つのねらいと施策の体系を示す。

#### 1 「穂の国」の歴史発信

馬越長火塚古墳群の持つ歴史的価値は、専門家の評価に比べて全国的な知名度は低く、未解明な部分も多い。まず「穂の国」の首長墓といわれる本古墳群を中心とした、地域全体の歴史文化に関する調査研究を進め、「穂の国」の歴史を入口にして史跡を広く県内外に発信し、その知名度を高めることを目指す。

#### 2 本質的価値の共有

本古墳群は、田園景観の中に歴史的価値の高い墳丘や横穴式石室が良好に残されているが、見学者は多いとはいえない。より多くの人々が史跡を訪れ、貴重な遺構や遺物を気軽に見学し学習できる環境を整えることにより、史跡の本質的価値を多くの人と共有することを目指す。

#### 3 人々の営みや景観との共存

本古墳群は、馬越地区の良好な環境や人々の営みの中で今日まで存続してきた。今後とも地域に愛され、支えられる史跡として、子どもたちなど次世代に継承していくために、地域の環境や景観と共存できる保存、活用、整備を目指す。

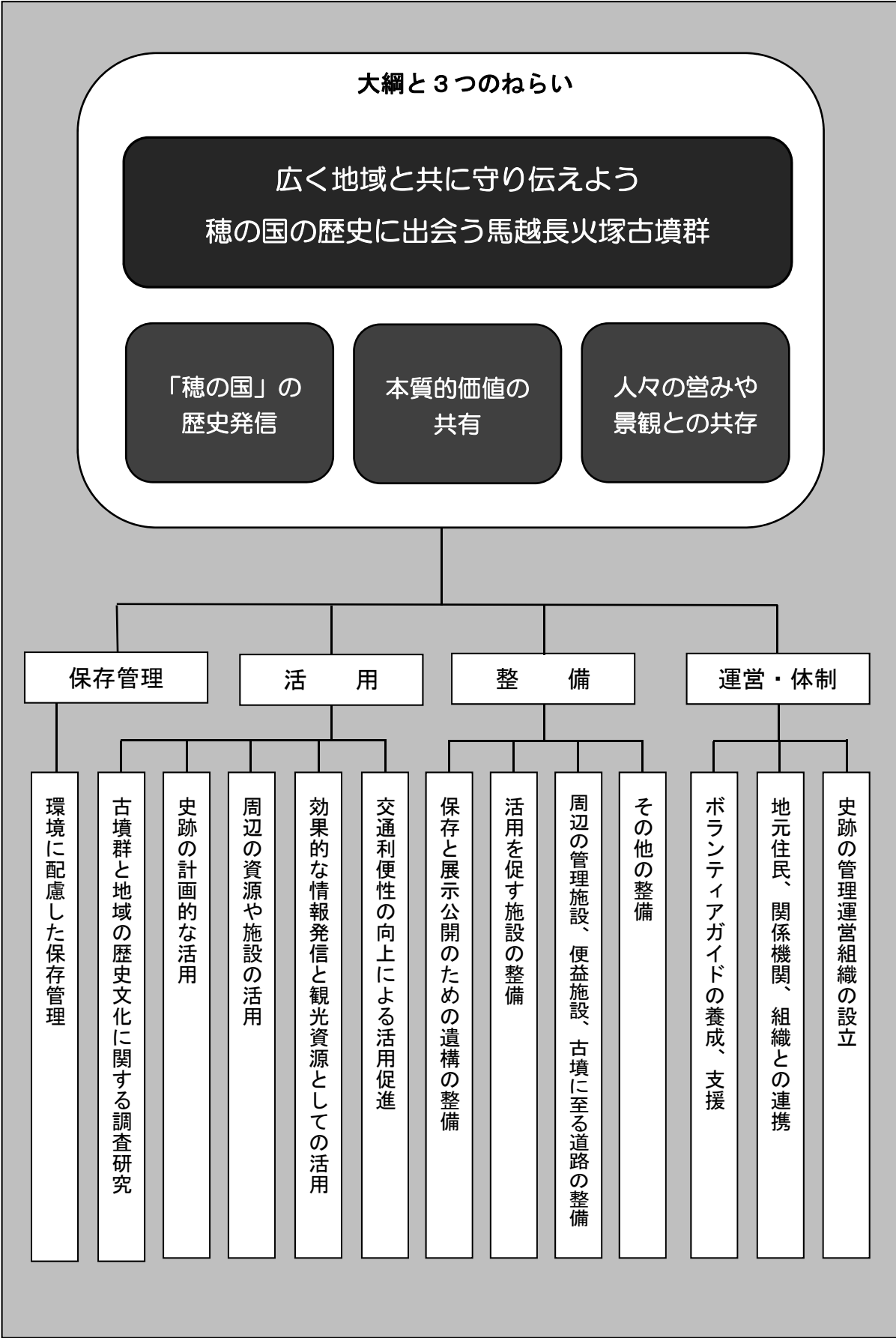


図 34 大綱、ねらいと施策の体系図